

小川ゆうじの読者の声

小川吉開 検索

田尻町支部党活動募金 1口200円のお願

なんでも相談は 月・水・金の 午前10時〜正午 465-9939

9月の弁護士相談は、14日(金) 夕方6時〜8時 事前予約が必要です

国民にとって大事なことを、本当に知りたいことを、タブーなく伝えてくれるのが「しんぶん赤旗」です。 日刊紙月ぎめ 三四〇〇円 日曜版月ぎめ 八〇〇円

大手紙、大義なき暴走

民主・自民・公明3党の増税連合による消費税増税強行がいかに大義のないものであったかは、増税法成立後も反対の声が過半数を維持していることを見ても明らかです。 この大義なき暴走をけしかけてきたのが「朝日」「読売」「毎日」「日経」「産経」といった大手全国紙です。(「しんぶん赤旗」16日付3面より)



内閣改造(岡田克也氏入閣)(1月14日付)



消費税増税法案閣議決定(3月31日付)



消費税増税法案成立(8月11日付)

消費税増税をおおった大罪

侵略戦争をおおった日本の進路を誤らせた戦前の新聞の過ちをほうふつとさせる

大手全国紙は昨年9月、消費税率10%への引き上げの具体化などを掲げた野田内閣が発足すると一様に歓迎、「先送り政治からの決別を」「朝日」、「もう後はない」覚悟を(「毎日」)など、増税断行へ叱咤(しつた)激励しました。「読売」はそのために、自民、公明両党との「大連立の実現」を催促しました。以来、増税法案の閣議決定(3月30日)、民自公3党合意(6月15日)、衆院通過(6月26日)、参院採決・成立(8月10日)など政局の節目にあわせて集中的な増税応援キャンペーンを行い、野田内閣が増税路線から後戻りしないよう「監視」を続けてきたのです。

読売新聞の渡辺恒雄会長は、ことし1月5日の読売賀詞交換会でこう語っています。「他の新聞も少しずつ反省して今度は消費税もTTPも全国紙はみな賛成に回って、現実主義的になつてきた。しかし、いつも変わらず、世論全体を引っ張っているのは読売新聞だ」「新聞之新聞」1月20日号) 「朝日」1月8日付のコラム「消費税増税 再生の一步に(星浩編集委員)は「権力監視が仕事であるメディアが『増税を容認する』ことへの疑問はあるだろう。しかし、先進各国で財政赤字が膨らみ、危機からの脱出策を探っている現在、メディアの役割は『監視』だけでは済まない。

国の再生に向けて、政治に「結果」を求めることが必要になってきた」と書きました。消費税に頼らない別の道があるという提案の中心をまともに吟味することもなく、それを国民に知らせるといふ報道機関の最低限の役割さえ果たさないでいて、なぜ消費税増税が「現実主義的」で「国の再生」につながると断言できるのか。消費税増税をめぐる大手全国紙の一連の報道姿勢は、「権力の監視」「真実の報道」というジャーナリズムの原点から離れ、権力と一体化した巨大メディアの墮落した姿を示しています。

よくも同じことを...

豪雨中「酒と肴で充電」つぶやき、批判続出 松井知事陳謝

14日早朝、大阪府内は豪雨に見舞われ、枚方市で女性1人が死亡したほか、計約2100棟が床上・床下浸水

同日午前10時03分の松井知事のツイッターでの、つぶやき
お盆休み、福岡の家の内の実家で過ごしています。世間は騒がしいようですが、ここは、本当に静かです。旨い酒と肴で充電中。2012.08.14 10:03

このためインターネット上では、「自ら防災の指揮を執らないのか」「危機管理能力が無い」といった書き込みが相次ぎ、府にも数件の苦情が寄せられた。

多くの共感が広がっていた、つぶやき

今日の集中豪雨災害の対応で、はっきりした。橋下徹・松井一郎をはじめとする大阪維新の会は、小さな政府を標榜してなんかいない。何もしない政府を目指しているだけだ。

松井知事は、15日18時25分に陳謝する、つぶやきをツイッターに投稿